

MISSION 02 / 鳥獣被害対策・猟友会サポート

山と里の境目で、暮らしを守る人になる3年間。



山形県北部、最上地域にある鮭川村。田畑と集落、そのすぐ向こうに山があるこの村では、人の暮らしと野生動物の生息域がとても近くにあります。

でも今回募集するのは、最初から一人前の「猟師」ではありません。地域の先輩と現場を歩き、見る。聞く。記録する。予防する。その積み重ねから、鮭川の田畑と暮らしを守る仕事を少しずつ受け継いでいく地域おこし協力隊です。

山と暮らす村だから、鳥獣対策が「暮らしの仕事」になった。

鮭川村は、中央を鮭川が流れ、東部に田畑、西部に山間部が広がる農山村です。村土の約 65%を森林が占め、山のすぐそばまで田畑と集落が続いています。



この地形は、鮭川の豊かさそのものです。一方で、**田畑や住宅地と野生動物の生息域が近い**ということでもあります。だから**鳥獣対策**は、山の中だけで完結する特別な仕事ではなく、農地と日々の暮らしを守るための仕事として続いてきました。

村では、平成 28（2016）年度以降、鳥獣被害防止計画を更新しながら対策を積み重ねています。計画を重ねる中で、対象はツキノワグマだけでなく、ニホンザル、イノシシ、ニホンジカ、小型獣や鳥類などへ広がってきました。

「獣害が出たら対応する」だけではありません。

目撃や被害の情報が入ったら、まず現場へ向かう。農家さんや地域の方から状況を聞き、足跡や痕跡を確認する。必要に応じて箱わなや防護柵を見て回り、その後も巡回する。写真や位置情報を残し、役場に戻れば報告や連絡、会議もあります。



銃を扱うことは、鳥獣対策の一部です。大切なのは、何が起きているのかを正しく捉え、地域の中で共有し、次の対応につなげること。小さな変化を見逃さず、地道に積み重ねることが、地域の安全につながります。

鮭川村を “守ってきた人” たち。

今回の協力隊は、一人で山に放り込まれるわけではありません。鮭川には、すでに地域を守ってきた人たちと、連携する仕組みがあります。

◎鮭川村猟友会・鳥獣被害対策実施隊

現場で中心になるのは、地域の地形や獣の動きを知る先輩たちです。鳥獣被害対策実施隊は鮭川村猟友会に所属し、目撃や被害があった際の現場確認、聞き取り、箱わなの設置・巡回、生息状況の調査、技能向上のための研修などを行っています。



鮭川村猟友会のメンバー

◎村役場・鳥獣被害防止対策協議会

役場では被害情報、許可、報告、関係者との調整を担います。また、村、農業委員会、JA、最上総合支庁、猟友会・実施隊などが参加する協議会があり、農作物被害や予防、捕獲に関する情報を持ち寄りながら対策を進めています。

協力隊にお願いしたいのは、こうした人たちに代わることはありません。まずはその横で歩き、地域で積み上げられてきた知恵と判断を受け取りながら、自分の役割をつくっていくことです。



現場を知る先輩と一緒に歩くところから。

鳥獣対策を取り巻く、3つの変化と現状の課題

鮭川村の鳥獣対策は、これまでと同じやり方を続ければいい、という状況ではなくなっています。

ひとつ目は、**野生動物が人の暮らしにより近づいていること。**

ツキノワグマは山の中だけでなく、住宅地や通勤・通学路、学校などの公共施設付近でも目撃されています。ニホンザル、イノシシ、ニホンジカなども村内で目撃されており、被害が大きくなる前から出没状況を把握し、先回りして対策することが必要になっています。

ふたつ目は、**これまで地域を守ってきた担い手が減っていること。**

鳥獣被害対策実施隊では高齢化が進み、捕獲や巡回に関わる人が少しずつ減っています。山の地形や獣の動き、安全に動くための判断など、現場で培われてきた経験を、次の世代へ受け継いでいくことも大きな課題です。

そして三つ目は、**捕獲だけでは地域を守れないこと。**

鳥獣対策には、箱わなや捕獲だけでなく、草刈りや緩衝帯づくり、防護柵の管理、目撃情報の収集、住民への情報共有など、さまざまな仕事があります。

つまり、これから必要なのは、

「獣を捕る人」を増やすことだけではなく、**地域の情報を集め、予防し、人と人をつなぎながら、地域全体で守る仕組みを支える人**です。



鮭川村の大自然

だから、次の担い手を募集します。

鮭川でこれから必要なのは、先輩たちと現場を歩きながら、鳥獣被害対策を一つの「地域の仕事」として受け継いでいく人です。

被害の情報を集める。農家さんや住民の話を聞く。現場を記録する。巡回する。箱わなや防護柵を確認する。会議や連絡を支える。必要に応じてセンサーカメラや位置情報を使い、出没や被害を見えるようにする。その上で資格と経験を重ね、できる範囲から捕獲にも関わっていきます。



鳥獣対策のイメージ

関わりしろは、想像より広いです。

- ▣ 被害箇所を巡回し、農家や地域の方から状況を聞く
- ▣ 写真・位置情報・目撃情報を整理し、記録として残す
- ▣ 箱わなや防護柵などの確認・設置・見回りを支える
- ▣ 猟友会、役場、農家、関係機関の連絡や会議を支える
- ▣ センサーカメラ等も使い、出没や被害を「見える化」する
- ▣ 必要な狩猟免許等を取得し、経験に応じて捕獲活動にも参加する

体を動かすことが得意でもいい。記録やデジタルが得意でもいい。人の話を聞き、調整することが得意でもいい。最初から猟師である必要はありません。自分の得意を持ち込みながら、地域の中でできることを増やしていきます。

※銃器を用いる活動は、法令・資格・許可・指導のもと、安全を最優先に段階的に行います。着任直後から単独で行う仕事ではありません。

3年間で、現場を知る人から、地域を守る人へ。

最初から一人前を求める仕事ではありません。1年目は知る。2年目は自分で担える範囲を増やす。3年目は、知識を残しながら自分の次の仕事へつなげます。



1年目 | 先輩と歩き、地域を知る

猟友会や実施隊の先輩に同行し、被害現場の見方、巡回、記録、安全管理、役場での事務などを学びます。必要な資格も取得しながら、まずは鮭川の鳥獣対策を知る1年です。

2年目 | 自分で担えることを増やす

巡回や記録、農家さんとのやり取り、被害情報の整理など、自分で担う仕事を増やしていきます。必要に応じてカメラやマップも活用し、資格や経験に応じて捕獲活動にも参加します。

3年目 | 知識を残し、次の仕事へ

巡回記録や対応方法、地域ごとの傾向などを整理し、次の人にも伝わる形に残します。同時に、鳥獣対策と農業・林業・里山管理などを組み合わせながら、任期後の働き方も考えていきます。

狩猟免許を取ることは、一つの手段です。でも、その先に必要なのは、鮭川の地形を知り、地域の人の顔を知り、何かあったときにどこへ行き、誰に聞き、どう次へつなぐかを分かっていること。

この村には、これまで地域を守ってきた先輩たちがいます。次の3年間で、その知恵を受け継ぎながら、自分だから担える役割をつくってほしいと思っています。

こんな人と、まず話してみたいです。

- ▣ 山や自然の中で体を動かすことが好きな人
- ▣ 巡回・記録・確認を地道に積み重ねられる人
- 狩猟だけでなく、農業や地域の暮らしにも興味がある人

山を知る人がいる。獣を知る人がいる。その知恵を、次の世代へ。

鮭川の暮らしを守る仕事を、先輩たちと受け継いでみませんか？

まずは、鮭川村を見に来てください

募集要項を読んだだけで、移住や仕事を決めるのは難しいと思います。

雪のある冬をどう感じるか。どんな人と一緒に動くのか。自分はどのミッションに惹かれるのか。実際に話して、村を見てから決めてもらえればと思います。

まずはオンラインで話す。気になったら鮭川村へ。現場を歩いて、人に会って、その上で正式応募へ。

(お問い合わせはこちらから)

<https://forms.gle/uqB8izSV54SNG4Ei7>

鮭川村
SAKAGAWA VILLAGE

地域おこし協力隊

募集

1. きのこ産業PR/販売促進
2. 鳥獣被害対策/猟友会サポート
3. 観光・地域プロジェクト

鮭川歌舞伎
CULTURE
伝統文化・芸術

HUNTING
鳥獣対策・狩猟文化

山の恵みを、
守り、活かす

LOCAL FOOD
きのこ産物・特産品

NATURE
新・清涼・自然環境

清流「鮭川」
TOURISM
休養・滞在・観光

OUTDOOR
キャンプ・アクティビティ

季節ごとに
表情を変える、
豊かな里山
SEASONS
四季の風景・里山の暮らし

(全体の募集記事はこちら) 別記事 U R L